

「シバカリ会」開催の報告

中嶋 幹郎 (昭57)

平成16年10月30日(土)～31日(日)に、長崎市郊外の「やすらぎ伊王島」にて約1年ぶりの「シバカリ会」が、今回も楽しい雰囲気にも包まれながら開催されました。本「シバカリ会」は、長葉の名門?薬剤学研究室の前教授、柴崎壽一郎先生の門下生の集まりで、今では毎年1回のペースを守りながら、ずっと大昔?から開催され続けている歴史ある研究室同門会です。

前回は昨年10月に佐世保市のハウステンボスJR全日空ホテルでの開催でしたが、今回は門下生一同が心から愛している柴崎先生が福岡県甘木市に転居されてからまだ一度も帰られていない長崎市のご自宅へ帰っていただく口実を作るために、平成13年1月以来約4年ぶりの長崎での開催となりました。

今回はシバカリ会会長の伊豫屋先生(昭41)の号令のもと、私と中村忠博さん(昭59)の2名が幹事を担当し、20名の門下生が集まりましたが、柴崎先生の奥様や四国から小西良士先生ご夫妻にも出席して頂くことができ、とても華やかな会になりました。

私はこの「シバカリ会」が大好きで、柴崎先生の門下生となっていて、毎回欠かさず出席させて頂いています。この「シバカリ会」では、学生時代に薬剤学研究室で一緒に過ごした先輩、同級生、後輩と当時の懐かしい思い出を語り合ったり、また今の仕事や家庭の近況等を話し合ったりすることができ、私はいつもその中から元気ももらっていると感じています。しかし一番嬉しいことは、柴崎先生の元気なお姿を拝見しながら、学生時代、薬剤学研究室にいた時と同じように、先生の楽しい大阪弁調子のマシンガントーク「柴崎節」を聞かせて頂けることです。数年前の「長葉同窓会報」にも書かせて頂きましたが、この柴崎節の渦の中にわが身が溺れていく心地良さは、柴崎先生の門下生にしか理解できないかも知れませんが、私にとっては最高に幸せな時間の一つです。今回の「シバカリ会」でも先生の柴崎節はあい

ならず絶好調で、会場は楽しい笑いの渦に包まれていました。

また、今回の「シバカリ会」では、柴崎先生と、ご多忙の中でも毎回遠くから「シバカリ会」に駆けつけてくださる小西先生に、参加者一同から「上質な鼈甲のネックレス」を進呈したのですが、お二人の先生方は、その場でそのネックレスをそれぞれの奥様方へプレゼントされ、「シバカリ会」が両先生の奥様孝行のお役にたつこともできました。

柴崎先生は、最初は「もうあかん」とおっしゃっておられましたが、最後には次も「シバカリ会」を開催してよいというお許しを頂くことが出来たので?、また1～2年後には「シバカリ会」会員の皆さんと柴崎先生が一同に集う会が開催できると思います。今回、欠席された皆さんとは、是非、次回お会いしたいです。

今回も、実に楽しい栄養たっぷりの「シバカリ会」を教え子一同にプレゼントして下さった柴崎先生に感謝するとともに、先生の益々のご健康を祈念して報告とさせて頂きます。

今回の出席者は次の通りでした。なお、間違い等がありましたら何卒ご容赦ください。

出席者

恩師 柴崎壽一郎先生ご夫妻

小西良士先生ご夫妻

氏名	卒業年次
田中博輝	昭39
江藤好信	昭40
黒川征史	昭40
伊豫屋偉夫	昭41
太田和子	昭41
平山文俊	昭41
山中國暉	昭43
田代(旧:吉川)佐夫子	昭48院
相川康博	昭48
森つよ子	昭49
小笠原正良	昭51院
藤井実	昭53

野口 (旧：淀) のり子	昭53	中村 忠博	昭59
中嶋 幹郎	昭57	塩田 英雄	昭60
相葉 (旧：池田) 啓子	昭58	本行 (旧：福田) 千里	昭61 (親子)
磯部 有紀子	昭58	芝口 浩智	昭63



昭和59年卒 クラス会

中村 忠博, 山下 敏孝 (昭59)

平成16年(2004年)が始まって間もない1月11日に卒業後20年目の同窓会が長崎市中華街近くに位置するワシントンホテルのガスライトで行われました。私たちの卒業年度だけの同窓会は卒業後10年目となった平成6年(1994年)以来でした。私は前回の同窓会には仕事の都合で参加できず、同級生と一緒に会するのは20年ぶりとなり、20年経ったみんなの顔を見られるのが楽しみでした。

今回の同窓会は、長崎大学医歯薬学総合研究科伊藤潔君が昭和59年卒業生のためのHPを設置してくれたおかげで、参加できる人、参加できない人の情報をみんなが確認することができました。これまでの同窓会では誰が参加するのか分からぬまま、参加することが多かったのですが、HPの利用でそのような心配も無くみんなも参加できた事と思います。

さて、同窓会の様子ですが、みんな集合時間前にはほとんどが集合しており、同窓会が始まる前から盛り上がりおりました。久しぶりに会う顔、

顔、顔、いろいろな顔が揃いました。私の場合、これまであまり同窓会に参加したことがなかったため、何人か分からない顔があるのでは？と、少し期待する？！気持ちがありました。会うと学生時代の顔とオーバーラップしてきます。しかし、20年ぶりに会う顔も多く、顔は思い出すのですが名前が出てこない人も何人かありましたが、気分はすっかり学生時代に戻っておりました。参加者は31名+子どもたち10名という多数の参加者で、大人はもちろん大変盛り上がり、それに負けないくらい子どもたちも大変盛り上がりおりました。あっという間に数時間が過ぎ最高潮に達した頃、松尾富士男君によるヨーグルト体操(イチ、ニッ、サン、シー、ヨーグルト、ゴー、ロク、シチ、ハチ、ウシノチチというのですが、皆さんお分かりになります?)が始まり、さらに盛り上がりました。楽しい時間が過ぎ去るのは早く、一次会が終わりましたが、それから、二次会は久しぶりに浜の町の「カラオケゆー坊」へと流れ込んでいき、夜が

更けるまで、同窓会は続きました。翌日は二日酔いにならなかった人たちは改装された薬学部の見学を行ったようです（私は二日酔いで起き上がりませんでした）。

今回の同窓会の主催者である伊藤君が仕事の都合で残念ながら二次会からしか参加できなかった



のですが、次回は必ず一次会から参加することですので、今回、参加できなかった方も、次回は、是非とも参加しましょう。次回は卒後四半世紀の区切りの同窓会となり、5年後の2009年(平成21年)に開催予定です。是非ともご参加を！



鶴大典先生喜寿祝賀会

伊藤 潔 (昭59)

平成16年10月30日の土曜日、前薬品生物工学研究室（当時は製造工学）教授の鶴大典長崎大学名誉教授の喜寿を祝う祝賀会が開催されました。場所は長崎市内のホテル「矢太楼」。研究室の10周年祝賀会が催された場所でもあります。芳本忠教授の呼びかけで集まった同門は、大阪市立大学時代の先生方も含めて57名。名簿を眺めてみると、残念ながら欠席されたテキサス大学教授に就任され

た小林龍二氏、テネシー大学助教授の北園アナ氏ら、海外で活躍している人も含めて大学や研究所で活躍している先輩達の数が多いことに改めて気づかされ、鶴先生のご指導の賜と尊敬の念を新たにしました。そんな研究室の喜寿祝賀会は近況報告会からスタートしました。摂南大学薬学部教授の荻田喜代一先生（昭54院）、第一サントリーファーマ(株)開発研究所所長の大末和廣先生(昭50)



のアカデミックなお話があり、いよいよ薬品製造工学初代教授、鶴大典先生の久しぶりの講義となりました。ご専門のプロテアーゼ研究の内容から、なつかしい写真を映しながらのお話。鶴節は「ときおり出るジョークが素晴らしい」との定評があったと記憶していますが、全く衰えない切れ味の良い洒落を交えてのお話に参加者一同時間を忘れて聞き入りました。正座されていた方も多かったように記憶しています。

さて、いよいよ祝賀会の本番。芳本教授の挨拶に続き、志賀寿造氏（ヤクルト本社専務取締役）と元製造工学助手の藤原邦雄先生（昭45，崇城大学教授）の祝辞がありました。大変丁寧だった藤原先生の祝辞は、当時の同門一人ひとりに向けられたものでした。立花寿子氏（昭56）から花束贈呈があり、同門会一同からの記念品目録は林田真二郎氏（昭48，長工醤油味噌理事）と第1期生の村井みどり氏（昭48）から贈呈していただきました。鶴先生のご挨拶。とてもお元気そうです。乾

杯の音頭は安藤實氏（奥本製粉）に執っていただき、祝宴の開始となりました。途中、愛水重典氏（新興産業）と吉田朋史氏（小野薬品工業）からお祝いの言葉を頂戴し、先に紹介した海外で活躍中の卒業生からのパワーポイントのメッセージが紹介されました。長崎の夜景も楽しみながら、時間はあっという間に過ぎ、最後は角邦男氏（昭50，ヤクルト本社）に格好良く閉めていただきました。この後撮ったのが掲載の写真ですが、誰が笑わせたのか、全員が笑顔の傑作となり、研究室を象徴する記念の大事な一枚となりました。本当に良い会であったと思います。最後に、会の開催に当たっては林田真二郎氏と永田修一氏（院昭55）のお力添えがありましたことを申し添え、感謝の意を表します。

鶴先生とゴルフ仲間は、翌日早朝から琴海の方へゴルフに行かれ、秋晴れの素晴らしい一日を過ごされたと聞いていますが、スコアの方は鶴先生に直接手紙で訊かれてはいかがでしょうか？



ケンタッキーだより

下條 正仁 (平2)

現在、私は米国ケンタッキー州レキシントンという町に住んでおり、ケンタッキー大学医学部で研究しています。ケンタッキー州は bluegrass state と呼ばれているように、春から夏は木々の新緑が、また秋は紅葉がとてもきれいな所です。庭にはリスやうさぎが走り回り、サラブレッドの牧場も多く見られます。環境はとても素晴らしいのですが、長崎とは異なり海に面していないのが残念です。その代わり、湖や川がたくさんあり、その自然の景観はとても美しいです。例えば、世界最大級の鍾乳洞、マンモスケープもあり、シーズン中は予約がないと見れない日もあるくらい観光客が多いようです。ケンタッキー州はリンカーンの生誕地でも有名で、また日本で飲まれるバーボンも、ここケンタッキー州で作られています。世界的に有名なケンタッキーダービーはルイビルという町で5月の第1土曜日に行われ、国内を始め世界各国からもたくさんの方が訪れます。この時期にはアメリカで最大といわれる花火大会も催されます。

早いもので、こちらでの生活も9年目に入りました。Lab Techとして研究していた妻は、長女誕生を期に現在は家事に専念しています。私の場合、研究室での英会話といっても専門的で比較的に楽ですが、一歩外に出ると南部独特の訛りがあふれ、理解に苦しむことも少なくありません。その中を、出産、育児、教育をやり遂げている妻は頼もしい存在でもあります。英語という言葉の問題もありますが、いろいろな面で日本とは異なっていますので戸惑うことも多いです。一方で、長女(7才、小1)と長男(3才、幼稚園)は、そんなことは全く関係なくのびのびと毎日楽しく過ごしているようです。特に、長女は月～金曜日は現地校、土曜日は日本人補習校へ通っており、よくやっているなあと感じています。

数年前のある日、大学の研究室へのエレベーターに乗ったとき、一人の男性と乗り合わせました。エレベーターの扉が開くのを待っていると、“下

條さんじゃないですか？”という日本語が聞こえました。これが、ダールさんとの再会でした。ダールさんは当時留学生として衛生学教室で博士課程に在籍していた方です。現在でも驚くほど流暢な日本語を話し、いつも明るくやさしく会話してくれます。また、ずいぶん前に後輩の野村扶君が遠路はるばる遊びに来てくれたことがありました。その際、ミルウォーキーに住む指月さんのところへお邪魔させていただいたことがあります。その際は、とても親切にして頂き大変お世話になりました。その後、すっかりご無沙汰しておりますが、いかがお過ごしでしょうか？

私は神経系に関する研究をしていますので、毎年秋に開かれる北米神経学会に参加しています。この国際学会には、日本からもたくさんの方が参加しています。参加者は8000人を越えるもので、発表会場もかなり広いものです。2年前のオランダの会場では、同級生の下田君とばったり出会いました。お互いに驚きましたが、久しぶりに懐かしい楽しい時を過ごすことができました。また、昨年、同学会がニューオーリンズで開催された際には、旧生化学教室の後輩である志方君とも出会いました。その夜は皆でニューオーリンズの町を深夜まで飲み歩いて、とても懐かしく楽しい時間を過ごすことができました。

最近、博士課程同期の北園アナさんが、テネシー大学で Assistant Professor をしているということをお聞きしました。ここから遠く



はない距離なので、近いうちに再会できたらと思っています。

最後になりましたが、同窓会報をケンタッキーまで送っていただいたりと、長葉同窓会室の皆様、

特に大河内さんにはとても感謝しております。同窓会を盛り上げてくださっている皆様方のご尽力に感謝しますとともに、大河内さんが早くお元気になられることを心より願っております。

科 搜 研 の オ ト コ

八木 洋一 (平9)

多くの薬学部OBの方は、薬剤師として多方面でご活躍されていることと思いますが、私はどういふ訳かその道を外れ、現在、長崎県警の科学捜査研究所に勤務して6年目になります。最近では、「科捜研の女」をはじめ、TV番組に登場することもありますので、科捜研の存在をご存知の方も増えてきたようです。

ちなみに、警察とはいっても、私は警察官ではなく、技術吏員という身分になりますので、制服を着ることも、警察手帳や拳銃を持つことも、犯人を追い詰めて逮捕することも、取調室で机を叩いて、大声を張り上げることもありません。いつも、白衣を着て、研究室内で穏やかに勤務しております。

では、科捜研の仕事について、簡単に紹介させていただきたいと思います。長崎科捜研では、法医係、化学係、物理係、文書係及び心理係から構成され、それぞれ専門的な技術、知識を駆使して鑑定を行っています。法医係では、主に生体試料を取り扱い、その血液型、DNA型の検出や、毛髪の異同識別、骨、顔貌の鑑定等を行います。化学系の業務は、覚せい剤や麻薬といった乱用薬物や毒物の分析、繊維や塗膜片などの微物の分析等で、物理係は、火災原因の解明や、交通事故原因の解析、銃器の殺傷能力の解析等が仕事になります。文書係は、筆跡、偽造文書及び偽造通貨の検査等を行い、心理係は、ポリグラフ(いわゆるうそ発見器)検査を行っています。

基本的には、研究室内での勤務ということになりますが、私は法医係に所属しており、その字のごとく、法医解剖室における司法解剖の手伝いや検査を行うこともあります。ここ数年、長崎で幼

い子供が犠牲となる事件が連続して発生しており、そういった解剖に立ち会うことは、本当に悲しいものです。あのような凄惨な事件が二度と繰り返されることのないよう、警察組織の一員として自分に何ができるのか、深く考えさせられました。

また、事件が発生すれば、夜中に呼び出されて、その犯行現場に急行し、現場活動に携わることもあります。凶悪事件ともなると、現場には、独特の緊張感が漂っており、捜査員や鑑識でゴった返す雰囲気の中で、自分がやるべきことを瞬時に判断することは、とても難しく、もっと場数を踏んで勉強しなければと痛感させられます。

さて、社会人となってからの時間というものは、本当に早いもので、あっという間に30歳の大台を超えてしまいました。次々と結婚し、子供を持つ同級生たちを目の当たりにし、漠然と30歳くらいまでには、結婚しなければと感じていましたが、すでに35歳くらいまでには…と軌道修正済みです。いつかは結婚したいと考えている独身の方々、がんばりましょう!!

また、30歳になったと同時に、あっという間に10kgほど太ってしまいました。さすがに危険を感じ、昨年の秋からスポーツクラブでエアロビにはまり、2ℓのミネラルウォーターを職場の机に常備し、雑誌「ターザン」を愛読することで、ようやく学生時代の体重に戻りました!ただ、最近、飲み会続きで、また太ってきましたが…。

そろそろ冬が到来し、スキーに鍋にお酒と楽しみも尽きませんが、皆さん、くれぐれもお体には気をつけられ、さらにご活躍されることを願っております。

近 況 報 告

山中 重輝 (平9)

皆さん、こんにちは。なぜか近況報告を書きなさいと天の声がありました。もう決定していると宣告され、私は抗い難い運命にあると思い、10月のひっそりした夜更けにモスバーガーのフレンチフライを食べながら、大学卒業時から今日に至るまでを思い出してみます。

大学院終了後、メーカーへの就職もやめてしまっていて、本来やりたい道に進もうと思い、準備のために1年浪人することにしました。それまでバイトしていた薬局で1年バイトさせてほしいと社長に言ったのが、運の尽きでした。バイト始めて20日後ほどして、「あ、山中は社員になったよ。」と、いつの間にか社員にさせられてしまいました。「なんちゅう、オヤジや！」と思いながらも、その当時の社長は深刻な人材不足と、将来のビジョンが見出せないで苦しそうでしたので何とか助けてあげないとかわいそうだと思い、社長をサポートすることに数年を費やす気持ちへとなりました。

その後、自分だけではどうにもできないと思い、次々と後輩（犠牲者）を引き込みました。1年後輩の秀島義浩君は第1号の犠牲者です。彼は研究室時代からのボクの無理難題を聞いてもらっていたので、今後もそういう役割でいだろうなと考えて引き込みました。そんなものです。第2号は今村朋史君です。彼はよくわかりませんが、バスケット部の後輩ということもあり、またボーっとしていたので引き込みました。その後犠牲者が犠牲者を

増やすという循環型の社会（会社）が形成され、最上元君、長迫信一君、友成正英君、多良圭子さんらが在籍しています。最近長崎の業界で、薬局的宗教団体と揶揄されるトータスグループは以上のようにして信者を増やしてきました。

このように、私たちの会社は若い人材で運営しています。これら若いスタッフで仕事をしていると、若い薬剤師同士が気軽に話し合え交流できる場がないな、と感じました。現在は弊社のスタッフといっしょに、月に1回、所属や病院・薬局の立場を超えた若手薬剤師の勉強会「Ph倶楽部」を主宰しています。お互いに疑問に感じることや、新しい情報・知識を共有する場所作りを行っています。

さて、数年はとんでもない社長をサポートしようと思っていましたが、犠牲者を増やしすぎたこともあり、脱走することが不可能となりつつあります。最近では、薬剤師の人材派遣・職業紹介会社(株)ファルマ・スクエアを立ち上げたこともあり、多忙な日々を過ごしています。弊社に就職する前に私のやりたかったことはもう少し先の未来にとっておこうと思います。そもそも、力も無いのに無茶な話だと、少し大人になって気づきました。私が人間的に成長し、ビジネスとしても成功させることができれば、そのチャンスは必ず来ると思っています。だから、今はこの立場を精一杯全うしようと思います。

平成11年卒業生同窓会

今村 朋史 (平11)

10月9日(土)、長崎市内のBg-café(五島町電停そば)にて同窓会を開催しました。ちょうどおくんちの最終日に重なり、にぎやかな場所で開催したのであわただしく始まったことをこの場を借りてお詫びします。

同窓会を企画しようと思ったのは、この同窓会報の原稿依頼が来たときでした。去年も原稿依頼をいただいていたのですが、正直「めんどうだな」と思い同窓会を開きませんでした。その年の同窓会報を見て、来年こそはしないと反省しまし

た。原稿依頼をいただいたのは8月中旬ぐらいだったと思います。それから、学年全員のメールアドレスを人を伝って集めました。連絡先を集めているときに同級生のみんなが同窓会を心待ちにしていたのがわかり、去年の同窓会をしなかったことをまた後悔しました。みんなの協力で二週間ぐらいでほぼ全員のメールアドレスを集めることができ、それからはスムーズに同窓会を開くまで進んでいきました。

同窓会に集まってくれたのは30名、全員で約80人なのでかなりの数の人が参加してくれました。そのほかにも参加したいのに都合がどうしてもあわず来られなかった人もたくさんいました。30名の中には、遠くは茨城から当日に駆けつけてくれた人もいます。しかも台風22号が関東地方を直撃した日で、その方が乗った飛行機の次の便は欠航になるという学生時代には見られなかった運の良さが見られました。

バイキング方式の食事と飲み放題で、席はクジにて決めました。学生時代にはあまり話しをしたことのない人とも一緒にテーブルになり、懐かしい話で盛り上がっていました。集まった人の中には、病院で働いている人、調剤薬局で働いている人のほか、製薬会社、薬局を経営している方など様々でした。学生時代と違って頑張っている人がたくさんいました。

自分が幹事だったということもあり、かなりいいかげんな計画で、二次会の場所すらおさえてなかったので一次会はほとんどその場に居らず場所探しに走り回っていました。というのも、一次会さえ決めていれば二次会はバラけるだろうと考えていたのでおさえていなかったのです。ですが、参加してくれた人ほとんどが二次会も行きたいということで、かなりあわてました。このことから同級生の仲のよさがわかると思います。

二次会の場所もなんとか手配でき、盛り上がっている会場に戻るとすぐに終わりの時間となり、最上くんが一本締めでビシッと締めてくれました。

二次会は出島ワープの2Fにある St. Andrews jigabar inn で行いました。海が見えるテラスでゆっくりと飲みながらしつとりと話し込んでいたのが印象的でした。二次会も終わりに近づき、何人かでラーメンを食べに行こうと話してい



るとそれも次第に広がり、三次会はラーメン屋になりました。20人近くが出島ワープから思案橋の李軒（店員のほとんどが中国からの留学生たちで雰囲気も味もよくお勧めです）まで歩き、そのせいかラーメンから水餃子、チャーハンまで軽く食べていました。そんな感じで同窓会も終わりました。時計を見るとなんと3時近く！あっという間に時間が過ぎました。

みんなも喜んでいたので、来年も必ず開催した



いと思います。今年参加できなかった皆さんもぜひ参加してくださいね。今回は幹事がいろいろぬけているところがあり、カメラを借りた今西さんをはじめ皆さんに迷惑をかけました。ありがとうございました。

余談ですが、その翌々日（11日）に同級生ゴルフコンペを行いました。たった4人ですが…。最終ホールまでもつれる好勝負であったことを付け加えさせていただきます。



第一回薬品分析化学研究室（黒田研究室）同門会報告

大山 要（平12）

去る9月18・19日、福岡県久山町（レイクサイドホテル久山）に於いて、薬品分析化学研究室同門会を、初めて開催致しました。我が薬品分析化学研究室は、黒田直敬教授の就任と同時に開講され、早いもので5年が経過しました。これを機に、同門会開催の話が持ち上がり、一番の古株である私が幹事を務めることとなりました。早速日時・場所を決定し、参加の有無を全員に確認したとこ

ろ、28名（残念ながら、当日3名欠席）が参加するとのことでした。これも、皆一様に研究室を懐かしみ、充実した時間を過ごした証であると感激するとともに、そうした環境を築いてくださった黒田先生をはじめとする先生方にあらためて感謝しました。

さて同門会当日、夕方には全員が無事顔をそろえることができ、ホッとしたところで、すぐに料

理を囲んでの宴会となりました。黒田先生の乾杯と研究室の近況報告が始まると、あちこちで歓声が響き、それぞれが学生時代と変わらぬ笑顔を見せていました。その一方で、話題の中心は仕事や



結婚へと移り、時の流れも感じられました。卒業生が皆自然と、黒田先生の周りに集まり、先生が食べる暇もないくらい盛り上がっていたのが印象的でした。宴会は予定を一時間近く過ぎてようやく、大庭義史先生の得意な？万歳三唱でお開きとなり、各部屋に場所を移して深夜3時頃まで続きました。翌日は豪華な朝食バイキングをいただき、次回はまた5年後の開催を約束して散会となりました。今回出席できなかった卒業生の皆さんと、これから卒業される皆さん、次回同門会では是非お会い致しましょう。

最後に、超多忙中、駆け付けて下さった黒田先生とお集まり頂いた参加者、また準備にご助力頂いた一番ヶ瀬さん（院平15）にこの場をお借りして感謝申し上げます。



末廣（修2）

森田（院平13） 木下（平13） 杉原（平13） 中村（平14） 入江（平14） 伊原（平13） 大庭先生（平15） 池（平15） 一番ヶ瀬（院平15） 大山（平12） 藤井（平15）
 岸川（平10） 荒川（平15） 大志茂（平12） 森中（平12）
 白澤（平16） 濱辺（平16） 赤司（平13） 小山田（平13） 黒田先生 井上（平11） 村崎（平12）